
第5回共同事業運営会議報告

病院図書室研究会・近畿病院図書室協議会

(報告者 平成11年度世話人：小田中徹也)

日時：1999年5月8日 午後1時～5時30分

会場：聖路加国際病院 5階大会議室

出席者：○病院図書室研究会

長谷川湧子 奥出麻里 河合富士美 田引淳子（共同事業運営会議メンバー）
熊谷智恵子（オブザーバー）

○近畿病院図書室協議会

小田中徹也 首藤佳子 須井麻由美（共同事業運営会議メンバー）

注 これまで大橋真紀子が近畿病院図書室協議会の共同事業運営会議メンバーであったが、平成11年度から須井麻由美が同メンバーになり、大橋真紀子は事業協力者として残ることが、了承された。

- 議題：(1) インターネット・プロジェクト
(2) 病院図書館員認定資格制度検討
(3) その他、年次統計調査での協力

報告・決定事項：

テーマ1 インターネット・プロジェクト（※1 編集長 ※2 ウェブマスター）

フォリオ・チームメンバー：長谷川湧子 奥出麻里※1 下原康子
上田奈緒美 小田中徹也※2 大橋真紀子 須井麻由美

当日の会議では、共同運営ホームページ「フォリオ」の編集長奥出麻里が、昨年秋の第4回共同事業運営会議以降の経過を資料を元に報告した。この事業は両会が共同事業を具体的な形で遂行する成功例として、今後も継続していくことが確認された。報告項目と内容は次のとおり。

- (1) 担当ページとファイル構成： 現在のページ構成、担当者、ファイル名の一覧を報告。このうち「保健医療関連サイト」「病院図書館員の掲示板（投稿記事録）」
「folio editors:フォリオ仮想編集室」は、新規に設けたページ。
- (2) 特別マーク付与： 昨年秋の第2回フォリオ編集会議において、特別推薦マークを付与することとした。そこで、第5回運営会議までの約5ヶ月間にわたり、folio editors上で複数のメンバーが同意したサイトを、特別のおすすめサイトとし、16サイトに特別推薦マークを付与した。
- (3) ページ内容構成の改訂： フォリオの開設以降、各ページの内容構成は随時改訂しているが、追加・再編成したサイトは以下のとおり。
「オンライン・ジャーナル」 内容一新、4サイト追加。
「サーチエンジン」 1サイト追加。

「文献の検索と関連情報」 「文献の検索」から項目名を変更。内容も再編成し、
 [外国文献の検索]、[国内文献の検索]、[文献関連情報]に分け、4 サイト追加。
 「出版情報とオンラインショッピング」 「出版情報の調査」から項目名を変更し、
 2 サイト追加。
 「保健医療関連サイト」 1 サイト追加。
 「研究・研修会へのお誘い」 3 サイト追加。
 「コーヒープレイクに」 5 サイト追加。

- (4) folio talk : 1998年11月25日～1999年5月5日、投稿記事数 68件（1行レスを含めると218件）。投稿者の内訳では両会いずれかの所属者が約60%を占めた。そのおもな記事内容は、総会や研修会の案内と報告、雑誌・新聞記事、書籍などの案内、ウェブ紹介、システム紹介、質疑応答、両会機関誌編集関係の話題、コンピュータウイルス情報など。

記事の投稿に関しては、ハンドルネームではなく氏名も所属も明らかにし自主的に自己紹介している記事が多い。1999年3月5日、突然folio talkの投稿記事が偶然性が重なりすべて消滅したが、バックアップ記事をもとに、それまでの投稿記事録をウェブ上に残すことにし、[投稿記事録]としてリンクしている。また、この事故をできるだけ回避するため、プログラム上の設定を変更した。

全国の病院図書室関係者が、ウェブを介してお互いが身近に話し合える場になっている点は、評価できる。ただし、投稿者に偏りがみられることも否めないのので、今後の課題としたい。

- (5) folio editors : 1998年11月18日から試用していたチーム専用の掲示板「フォリオ仮想編集室」をUSER IDとPASSWORD付で、1998年12月末より正式使用している。なお、病院図書館員認定資格制度検討班も、この専用掲示板を使用できるようにした。日々変化しているウェブサイトの案内を共同作業で編集するのに、こうした掲示板はメールと併用することで、有用であると思われる。実際、記事の投稿とレスはきわめて活発で、メンバー間の緊密な連携作業に役立っている。
- (6) 報告および広報活動 : フォリオについて、雑誌記事として報告、発表したものを一覧表にして報告した。そのうち、1)から8)については前回に報告済であったので、9)から17)までの9件が紹介された。また、学会・研究会等で発表されたものはこれまでに5件あり、そのうち1件が紹介された。
- (7) アクセス数 (NedStat Statisticsより) : 1998年4月19日～1999年5月3日
 計11,678回 12.5ヶ月 平均 929回/月 215回/週 31回/日 最大アクセス日
 1999年4月20日 87回 (4月19日～5月9日までは非公開のため、少数)
- (8) 添付資料 : 記事更新記録 What's New! (05/09/98 - 05/02/99)の、プリントアウト。

テーマ2 病院図書館員認定資格制度検討（※班長）

検討班員：河合富士美 田引淳子 首藤佳子※ 林伴子 浜口恵子

検討班から、前もって構成メンバーに配布されていた資料を当日は持参し、それを元に検討班班長首藤佳子が報告、説明した。報告書本体と7種の別紙資料で構成されており、その要旨と検討結果は次のとおりである。

この中で、病院図書館員の「専門性」について、深く追求できなかったことが反省点

としてあげられた。これについては、会議でも議論されたが、広い意味での図書館員の専門性についても意見の分かれるところであり、明解な定義化には至らなかった。今回は認定の目的と教育カリキュラム内容を提示することで、病院図書館員の専門性について内容を概略的に示すことにした。

なお、検討に際し参照した資料、班会議等は省略する。

(1) 報告書・資料の構成：

- 報告書 「病院図書館員認定資格制度」について（報告）
- 別紙① 「病院図書館員認定資格制度」（その目的）
- 別紙② 「教育カリキュラム」（案）の基本的な考え方
- 別紙③ 「教育カリキュラム」（案）
- 別紙④ 「教育カリキュラム」（案）のチェック
- 別紙⑤ 「病院図書館員の業務達成目標」
- 別紙⑥ 「受講申込書」
- 別紙⑦ 「通信教育実施に際しての経費見積」

(2) 報告書の内容構成： 4項目について報告され、その内訳は次のとおり。

- 1) 「認定」制度について
- 2) 「教育カリキュラム」（案）について
- 3) 「教育カリキュラム」の実施方法（案）
- 4) 「認定方法」（案）

(3) 認定制度の必要性： 医療関連職種における専門分化、図書館界における専門司書養成の動き、アンケート調査での両会会員の意向、など認定制度への要望・必要性が高まっている。また、厚生省は業務範囲の確立と教育カリキュラムの整備、実績のある職種には、資格法制化の動きを示していること。以上のことから、「教育認定」の形でスタートすることが現実的であり、有効であると考えられる。

別紙①で、制度の目的の4項目が提示され、合意を得た。

- 1) 職業的倫理および専門的知識技術の習得。2) 系統的な課題の修得。3) 病院図書館業務の標準化と継続性の確保。4) 病院図書館員の社会的認知と処遇の改善を図ること。

(4) 教育カリキュラム： 別紙②、別紙③で具体的な内容が示されたカリキュラムの基本的な考え方と構成分野は、次のとおり。

<基本的考え方>

- 1) 勤務環境（医療および病院）に関する基本的理解
- 2) 対象分野（医学および関連分野）に関する基礎的知識の修得
- 3) 医学関連分野の図書館情報学的知識と技術の習得
- 4) コンピュータ・リテラシー（基礎と応用）の習得
- 5) 職業的倫理の修得
- 6) 研究的姿勢の涵養と研究手法の修得

<カリキュラムの構成分野>

- 1) 病院図書館情報学

- 2) コンピュータ・リテラシー
- 3) 健康科学 (医学・医療)
- 4) 研究

全27単位制で構成されるカリキュラムの各分野について、それぞれ修得項目と達成目標が提示され、さらに検討は要するが、基本的な路線については合意を得た。

- (5) 教育カリキュラムの実施： 両会を母体とする第三者機構によって実施することが望ましい。ただし、経費は相当額が予想されるので、実現の可能性が懸念される。代案として「カリキュラム実施委員会」(仮称)を両会で組織し、実施することも考えられる。

実施方法は、通信教育と講義実習(スクーリング)を併用する。

なお、カリキュラムの教育実施にあたっては、4分野を均等に履修するのではなく、病院図書館情報学(特に医学関連資料・情報の知識)とコンピュータ・リテラシーに重点を置くことが運営会議で確認された。

- (6) 認定方法： これまでの検討結果を踏まえ、次のような答申が出された。

- 1) 資格の認定 2年間で所定のカリキュラムの単位を取得した者に対して認定資格を与える。資格名は未定。
 - 2) 実施母体 第三者機構(事務局、スタッフ未定)
 - 3) 受講資格 司書で病院図書館に勤務している者。あるいは勤務を希望している者。無資格者で病院図書館に5年以上勤務している者。
 - 4) 履修期間 2年間
- その他、資格の更新、費用、申込み手続き、などが報告された。

- (7) 実施にあたっての今後の手続き： 病院図書室研究会および近畿病院図書室協議会に、当答申案と運営会議での検討結果を持ち帰り、それぞれの機関で検討する。各機関で検討した結果を踏まえ、再度両会で合議し、実施が合意されれば、実現化の作業に入る。次回運営会議をもって、実施の是非と実施の方法について最終的結論を出すこととする。

なお、各会で特に問題となるのは、第三者機構の設置とその経費の捻出、また事務局や教育スタッフの人選であろうと予測される。慎重に検討し、実現化に向けていきたい。

テーマ3 その他

- (1) 年次統計調査での協力： 病院図書室研究会から提案されていた年次統計調査の共同事業化について検討した。両会の統計事業を一本化するには、組織的基盤の違い、統計項目の多寡などで差異が多い。そこで、共同事業ではなく協力事業として、統計項目のうち共通項目については両会で調整し、様式を統一すること、統計の各集計結果は相互に提供し合うことで合意した。

- (2) 次回第6回運営会議： 1999年11月、京都にて開催予定。(敬称略)